

1. 大学名	滋賀県立大学
2. 実施主体（センター名）	学生支援センター
3. 連携大学・コンソーシアムがあれば（大学・コンソーシアム名）	環びわ湖大学・地域コンソーシアム
4. これまでの復旧・復興のための支援等の活動実績	<活動実績> ① 東日本大震災復興支援ボランティア活動への学生支援 ・災害復興支援ボランティア活動事前説明会の開催（参加人数46名） ・東日本大震災復興支援ボランティア活動の単位化のための規程改正 一定の要件を満たした学生のボランティア活動に対して単位（自由科目：1単位）を付与するために履修規程を改正。（H23・7・5 履修規程改正） ② 学部・大学院の科目等履修生の入学料および授業料の減免（実績0人） <その他の機関との連携・協力関係> ② 現在の連携の状況・協力体制 ・環びわ湖大学・地域コンソーシアムとボランティア参加費助成で連携 ・滋賀県立後援会と交通費、ボランティア保険料の助成で連携 ・滋賀県立大学生生活協同組合と学生への情報提供等で連携
5. 今後、予定している活動内容	<活動内容> ① 東日本大震災復興支援ボランティア活動への学生支援の継続 ② 東日本大震災復興支援ボランティア活動の単位認定 一定の要件を満たした学生のボランティア活動に対して単位（自由科目：1単位）を付与する。（H23・7・5 履修規程改正） ③ 学部・大学院の科目等履修生の入学料および授業料の減免 <その他の機関との連携・協力関係> ① 今後の連携・協力体制 ・環びわ湖大学・地域コンソーシアムとボランティア参加費助成で連携（継続） ・滋賀県立後援会と交通費、ボランティア保険料の助成で連携（継続） ・滋賀県立大学生生活協同組合と学生への情報提供等で連携（継続）
6. 活動が、自治体の復興計画に記載されている場合（今後の予定を含む）又は自治体との連携協定がある、又は要望等がある場合（特に被災地の大学について）	

東日本大震災の復興支援の取組みについて

滋賀県立大学

本学では、被災地および被災地学生に対して、次のような支援を行っている。

(平成23年8月末現在)

1 科目等履修生の入学検定料、入学料、授業料の減免（実績0人）

東日本大震災の被災（原子力災害特別措置法に基づく避難勧告・指示があった場合を含む。）により出身大学での修学が困難となった大学生について、科目等履修生として本学の開講科目を履修する場合に入学検定料、入学料および授業料を免除することとしている。

2 学生ボランティアの支援

① ボランティア活動に対する単位認定（申請者6名）

本学学生の災害復興ボランティア活動を支援するため、現地での30時間以上のボランティア活動に対して単位認定（1単位。卒業要件単位には算入しない。）を行うこととした。

② ボランティア事前説明会の開催（参加者46名）

夏季休業前に事前説明会を開催し、単位認定、ボランティア活動での留意事項、本学後援会による交通費等助成制度等の説明、活動実践報告、大学生協等の団体が行うボランティアツアー募集例の紹介を行った。

③ 活動報告会の開催（参加者約50名）

学生自治会と大学生協が中心となって、ボランティアに参加した学生の活動報告と情報交換が行われた。

④ 大学後援会、生協等との連携

- ・大学後援会から交通費およびボランティア保険料の助成が行われた。
- ・大学生協同組合からボランティアツアー募集等の学生への情報提供が行われた。
- ・環びわ湖大学・地域コンソーシアムから、いわてGINGA-NETプロジェクト

トに係るボランティア参加費の助成が行われた。

3 ボランティア活動

① 番屋プロジェクト（参加者 6 名）

宮城大学の教員が漁業被害の大きかった南三陸町志津川の漁協組合員のために仮設の番屋（作業小屋）を建設するプロジェクトを実施することとなり、以前から同教員と交流のあった本学の教員が 5 月の連休中に学生とともにその建設作業の支援にあたった。

8 月にも、「木興プロジェクト」として学生約 30 名とともに南三陸町歌津地区での番屋を建設した。（参加者 33 名）

② その他の活動

特に環境・建築、地域関係の複数の教員が各々の専門分野で被災地の大学・教員等と協力し、あるいは所属する学会内での震災復興支援の取り組みに携わっている。

- ・日本建築学会の委員会活動で取り組まれている仮設住宅の外観やインテリアの質感・色彩についての調査研究提案についての検討。
- ・近江環人ネットでの被災地域（歌津地区）の復興計画支援
- ・花の絵葉書プロジェクト
- ・避難施設における子どものケア（福島県会津若松市）
- ・いわてGINGA-NETプロジェクト（参加者 7 名）

4 義援金の送金

義援金を募り、送金を行った。

教職員	60 名	3 月末送金	242,400 円
学 生	20 団体（サークル等）以上、	4 月 18 日送金	397,899 円

1 大学名	京都府立大学
2 実施主体（センター名）	京都府立大学（京都府立大学東日本大震災支援検討会議）
3 連携大学・コンソーシアムがあれば（大学・コンソーシアム名）	
4 これまでの復旧・復興のための支援等の活動実績	<活動実績> ①支援検討会議の設置 →京都府立大学東日本大震災支援検討会議の立ち上げ（4月13日） ②東日本大震災に係るボランティア活動への学生支援 ・ボランティア活動に係る京都災害ボランティア支援センター等の情報提供 →実際に現地でボランティア活動に従事した者1名 ③義援金の募集 →学生団体による募金活動の実施（3月15日、27日） →学生団体による募金活動の実施（4月4日、6日、9日府立植物園にて） →学生団体による募金活動の実施（新入生歓迎夜祭） →その他、教職員、学生から義援金を募集 義援金総額 165,000円 ④東日本大震災により被害を受けられた受験生に対する支援 ・平成23年度入学科・授業料、平成24年度入学考査料の減免 →減免した者（編入学）4名 ⑤公共政策学部教員による被災地域の調査 ・公共政策学部教員8名による調査（8月11日から13日まで）→概要は (http://www.kpu.ac.jp/cmsfiles/contents/0000002/2268/hisaichi_houkoku.pdf) ⑥京都政策研究センターによる被災地調査 ・京都環境文化学術フォーラム（2012年2月11日開催予定）の取り組みの一環 ⑦公共政策学部・地域連携センター・京都政策研究センター共催の報告会 「東日本大震災復興と私たち～大震災の経験を未来につなぐ～」(10月13日) →教員、院生、学生がそれぞれの専門性を生かした形で復興支援に何ができるのか、課題の共有と支援のあり方を探る。被災地からも講師に参加いただく中で開催（100名参加）
5 今後、予定している活動内容	
6 活動が、自治体の復興計画に記載されている場合（今後の予定を含む）又は自治体との連携協定がある、又は要望等がある場合（特に被災地の大学について）	

※平成23年10月21日（金）、情報提供。

公共政策学部教員有志 8 名が東日本大震災の被災地域を調査

小沢修司公共政策学部長、青山公三京都政策研究センター長をはじめ公共政策学部の教員有志 8 名が、8 月 11 日から 13 日にかけて、東日本大震災の被災地域の調査を行いました。

宮城県石巻市、岩手県の大槌町と陸前高田市では自治体や復興支援組織の方から被災当時の模様や復興計画策定の現状などをうかがいました。

石巻市では 6 月に復興計画を検討する市民委員会が設置され、これまで 5 回の検討を行われてきました。今後、市民アンケートを踏まえた計画づくりに取り組むとのことでした。また民間側の動きとして、全国から支援に集まる多くの N P O 団体を組織化し、「石巻災害復興支援協議会」を立ち上げ、社会福祉協議会と協力して、一般のボランティアも含めた体系的な民間支援を行っていました。これは全国的にも注目できる活動でした。



市街地にうず高く積み上げられたガレキ(陸前高田市) 8 月 12 日



鉄筋コンクリート製の建物以外ほとんど見られない石巻市街地 8 月 11 日

次に、岩手県大槌町では情報が寸断された地域、避難所において被災者自身が力を出し合って助け合い、その後は町職員 O B の協力も得て復旧に取り組んでこられたとのことでした。地域のコミュニティの団結がこうした非常事態にいかにか大切かを思い知らされました。

また、陸前高田市では自治体職員の 3 分の 1 以上にあたる 68 名の職員が亡く

なるなか、近隣の遠野市をはじめ、名古屋市からの 30 名以上の職員派遣や協力によって復旧、復興活動が進められていました。

これらの地域では避難所のほとんどは閉鎖され、被災者の方々は仮設住宅に移られているとのことでした。また地盤そのものも沈下した町の再興に向けて力が注がれる一方で、国の復興支援策が具体的にどうなるのか、遅々として見えてこない現状にいらだつ様子もうかがえました。また、町村合併によって地域の視点が欠落し、被災地支援の遅れにつながったという問題も浮かび上がりました。

上記の市・町のほか、気仙沼市や南三陸町、女川町といった被災地を訪ねましたが、一部のコンクリート製建物以外は何もなくなってしまったり、行き場のないガレキがうず高く積み上げられていたり、大きな漁船が港から 500 メートルも町中に押し流されていたり、拠点となるべき防災対策庁舎が鉄骨だけの姿になっていたり、3 階建の鉄筋コンクリート製の建物までもがゴロンと横倒しになっていたり、津波の巨大な力をまざまざと見せつけられました。これらの地域では、住民の命を守るためには津波をただ「防ぐ」だけでなく、津波からいかに「逃げる」かもまた防災計画上の重要な課題であると感じました。

今後は、今回の調査結果について学内外で報告を行ったり、各自の授業の中で位置づけて取り上げたりするとともに、現地調査や研究を継続的に実施したり、何らかの支援にも取り組みたいと考えています。



津波で倒れたコンクリート製の建物(女川町) 8月13日



港から市街地に 500mも流された巻き網漁船
「第十八共徳丸」(気仙沼市) 8月13日

1. 大学名	京都府立医科大学
2. 実施主体（センター名）	
3. 連携大学・コンソーシアムがあれば（大学・コンソーシアム名）	
4. これまでの復旧・復興のための支援等の活動実績	<活動実績> ●医療に関する支援 ① 3/12～18 仙台市（仙台医療センター他）へ医師 1 名を派遣 ② 3/12～13 福島県（福島空港内）へ医師 2 名を派遣 ③ 3/15～18 仙台市（仙台医療センター他）へ医師 1 名看護師 2 名を派遣 ④ 3/15～17 宮城県内へ医師 2 名を派遣（検視医） ⑤ 3/19～21 福島県（会津若松市他）へ医師 1 名を派遣 ⑥ 3/21～22 福島県（会津若松市他）へ看護師 1 名を派遣 ⑦ 3/24～30 宮城県内へ歯科医師 1 名を派遣（検視医） ⑧ 3/30～4/3 福島県（会津若松市他）へ 2 名派遣（医師 1、事務 1、他に看護協会から看護師 2 名同行） ⑨ 4/3 ～ 8 福島県（会津若松市他）へ 4 名派遣（医師 1、看護師 2、事務 1） ⑩ 4/12～17 福島県（会津若松市他）へ 4 名派遣（医師 1、リハ技士 2、事務 1、他に看護協会から看護師 2 名同行） ⑪ 4/17～20 福島県（会津若松市他）へ 4 名派遣（医師 1、薬剤師 1、看護師 1、事務 1） ⑫ 4/20～24 福島県（会津若松市他）へ 5 名派遣（医師 3、看護師 1、検査技師 1） ⑬ 4/24～28 福島県（会津若松市他）へ 3 名派遣（医師 1、看護師 1、薬剤師 1） ⑭ 5/8～5/11 福島県（会津若松市他）へ 7 名派遣（医師 2、看護師 1、放射線技師 1、リハ技士 3） ⑮ 5/11～15 福島県（会津若松市他）へ 3 名派遣（医師 1、看護師 1、事務 1） ⑯ 5/15～19 福島県（会津若松市他）へ 4 名派遣（医師 2、看護師 1、事務 1） ⑰ 5/19～23 福島県（会津若松市他）へ 4 名派遣（医師 1、看護師 1、薬剤師 1、放射線技師 1） ⑱ 5/30～6/3 福島県（会津若松市他）へ 5 名派遣（医師 1、看護師 1、リハ技士 2、事務 1） ⑲ 6/6～10 福島県（会津若松市他）へ 5 名派遣（医師 3、看護師 1、事務 1） ⑳ 6/27～7/1 福島県（会津若松市他）へ 4 名派遣（医師 1、看護師 1、放射線 2） ●その他の支援 <避難所運営支援> 4/6～12 福島県（郡山市）へ 1 名派遣（事務 1） 5/1～7 福島県（郡山市）へ 1 名派遣（事務 1） <放射線被ばく量の測定業務支援> 4/14～19 福島県（会津若松市他）へ放射線技士 1 名派遣 <心のケアチーム診療支援> 5/1～7 福島県（会津美里町他）へ医師 1 名派遣 5/16～22 福島県（会津美里町他）へ医師 1 名派遣 5/26～6/1 福島県（会津美里町他）へ 2 名派遣（医師 1、P SW1 名） 6/5～11 福島県（会津美里町他）へ 3 名派遣（医師 1、看護師 1 名、CP1 名） 6/10～16 福島県（会津美里町他）へ医師 1 名派遣

	6/20～26 福島県（会津美里町他）へ2名派遣（医師1、看護師1名） 7/7～10 福島県（会津美里町他）へ3名派遣（医師1、看護師1名、CP1名） 7/24～27 福島県（会津美里町他）へ看護師2名派遣 <その他の支援> ○ 避難所への医療支援の際、医薬品を持参 ○ 福島県立医科大学に対し、ポケット線量計(110台)を提供、併せ教授会から義援金200万円を支援 ●募金活動 学内に義援金の募金箱を設置し、平成23年4月末に日本赤十字社に募金総額425,768円を寄付 <活動実績と自治体との連携・協力関係> ① 震災前からの連携の状況・協力体制 京都府が実施する防災訓練への参加、医療支援等要請への対応 ② 現在の連携の状況・協力体制 震災以前と同様 <その他の機関との連携・協力関係> ① 震災前からの連携の状況・協力体制 京都府医師会、看護協会などと協力して医療支援を実施 ② 現在の連携の状況・協力体制 震災以前と同様
5. 今後、予定している活動内容	<活動内容と自治体との今後予定されている連携・協力関係> 京都府等から要請があれば、医療支援活動を行う予定である。
6. 活動が、自治体の復興計画に記載されている場合（今後の予定を含む）又は自治体との連携協定がある、又は要望等がある場合（特に被災地の大学について）	

1. 大学名	大阪府立大学
2. 実施主体（センター名）	大阪府立大学 東日本大震災支援推進室
3. 連携大学・コンソーシアムがあれば（大学・コンソーシアム名）	・県立岩手大学（いわて GINGA-NET プロジェクト実行委員会） ・南大阪地域大学コンソーシアム ・東日本大震災被災地ボランティア等支援事業大阪府実行委員会（大阪府危機管理室内）
4. これまでの復旧・復興のための支援等の活動実績	<活動実績> ① （6月8日（水）～12日（日）） 災害ボランティア学生派遣準備事業の一環として、学生3名と職員1名を派遣し、岩手県大槌町並びに陸前高田市において、避難所での炊き出し、支援物資配給、健康診断の補助及びガレキ撤去などの活動を行った。 <活動実績と自治体との連携・協力関係> ① 震災前からの連携の状況・協力体制 ② 現在の連携の状況・協力体制 ・大阪府と被災地へのボランティア派遣といった協力体制をとっている。 <その他の機関との連携・協力関係> ① 震災前からの連携の状況・協力体制 ② 現在の連携の状況・協力体制 ・南大阪地域コンソーシアムと学生ボランティア派遣について連携を行っている。
5. 今後、予定している活動内容	<活動内容> ① 学生ボランティア派遣事業 【日程】 第1陣 8月28日（日）～9月2日（金） 6日間 第2陣 9月7日（水）～9月13日（火） 7日間 【派遣人数】 各陣 学生25名程度、教職員若干名 【活動場所】 岩手県大槌町、陸前高田市 など 【活動内容】 ・避難施設・仮設住宅等の生活支援 ・子ども向け学習支援、遊び支援 など ② 被災地域物産展の開催について 11月開催の本学白鷺祭において、被災地の農産物、海産物をキャンパス内で販売することにより、復興支援に寄与する。 <活動内容と自治体との今後予定されている連携・協力関係> ① 今後の連携・協力体制 ・大阪府と継続的に協力し、学生のボランティア派遣活動を行う予定である。 <その他の機関との連携・協力関係> ① 今後の連携・協力体制 ・南大阪地域コンソーシアムと学生ボランティア派遣について継続的に連携を行う予定である。
6. 活動が、自治体の復興計画に記載されている場合（今後の予定を含む）又は自治体との連携協定がある、又は要望等がある場合（特に被災地の大学について）	

資 料

(第 1 陣)

東日本大震災 大阪府立大学学生ボランティアの派遣事業について

東日本大震災の被災地支援の取組みとして、大阪府立大学の学生等を大阪府等と連携し、第 1 陣は、岩手県大船渡市の介護老人保健施設（松原苑）並びに岩手県遠野市（NPO 遠野まごころネット）を拠点に、陸前高田市等へ派遣いたしました。第 1 班の学生 9 名が「松原苑」にて被災された高齢者等への介護支援として、食事介助、清掃支援、会話を中心としたケア等の活動に従事し、また、第 2 班の学生 15 名が遠野まごころネットのボランティアメニューとして、陸前高田市内の被災農地及び釜石市内住宅の瓦礫・石ころ撤去等の活動を行いました。

記

- 1 第 1 陣派遣日
平成 23 年 8 月 28 日（日）～ 9 月 2 日（金）
- 2 派遣人員 30 名
ボランティア登録学生 24 名、教員 2 名（看護学部）
職員 3 名（経営企画課、学生課）、府職員 1 名（危機管理室）
- 3 活動場所・宿泊施設
岩手県 大船渡市、陸前高田市、釜石市
宿泊先 上鱒沢地区集会所（岩手県遠野市宮守町上鱒沢 19-105-1）
- 4 行程表
8 月 28 日（日） 20:00 学生センター前集合
22:00 出発式・岩手県へ出発
8 月 29 日（月） 12:00 現地到着後、オリエンテーション等
8 月 30 日（火）～ 9 月 1 日（木） 現地での活動
【9 月 1 日（木） 22:00 現地出発（帰阪）】
9 月 2 日（金） 12:00 大阪府立大学着 解散

※ 活動報告会は、10 月 12 日（水）18 時 10 分～（B3 117 大講義室）

(第2陣) 公立大学協会企画事業

東日本大震災 大阪府立大学等学生ボランティアの派遣事業の概要について

東日本大震災の被災地支援の取組みとして、公立大学協会、現地岩手県立大学、大阪府立大学及び大阪市立大学の学生等とが連携し、第2陣として、いわてGINGA-NETプロジェクトのメニュー（仮設住宅のお茶っこサロン、子ども遊び・学習支援、各種イベント支援等）について現地のニーズにマッチした活動を行います。

記

- 1 支援企画
公立大学協会
- 2 第2陣派遣日
平成23年9月7日（水）～9月13日（火）
- 3 派遣人員 25名
ボランティア登録学生23名（大阪府立大生18名、大阪市立大生5名）、
参加希望職員2名（総合調整室、学生課）
- 4 活動場所・宿泊施設
岩手県大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市、住田町他
宿泊先 五葉地区公民館（岩手県気仙郡住田町上有住中塚63）
- 5 行程表（案）

9月7日（水）	14:00	学生センター前集合
	15:00	出発式・岩手県へ出発
9月8日（木）	6:00	現地到着（五葉地区公民館） (沿岸地視察、オリエンテーション等を実施)
9月9日（金）～9月12日（月）		
	7:00	起床、8:00現地へ出発～活動
	16:00	頃活動終了し、食事、入浴、宿舎着、
	19:30	頃 振り返り会、交流会など
【9月12日	22:00	時 宿舎を出発（帰阪）】
9月13日（火）	午後	大阪府立大学着 解散

※ 活動報告会は、10月12日（水）18時10分～（B3 117 大講義室）

1. 大学名	公立大学法人大阪市立大学
2. 実施主体（センター名）	附属病院、各研究科 等
3. 連携大学・コンソーシアムがあれば（大学・コンソーシアム名）	
4. これまでの復旧・復興のための支援等の活動実績	<活動実績> ・DMAT隊の派遣： 派遣人数 8名 ・医療救護班の派遣： 派遣人数 38名 ・人工透析患者向け避難所への看護師の派遣： 派遣人数 1名 ・心のケアチームの派遣： 派遣人数 17名 ・原子力災害現地対策本部への医師の派遣： 派遣人数 2名 ・学生ボランティアの派遣： 派遣人数17名 ・教職員のボランティア派遣： 派遣人数3名 ・義援金の募集： 8,550,337 円（8月1日現在） ・受験生及び入学手続者に対する特別措置：入学手続の延長2名 ・入学科・授業料の震災減免措置：採択者 入学科全免2名、授業料減免2名 ・図書資料利用サービスの提供：利用者2名 ・修学支援及び研究者等の受入体制の整備 ・創造都市研究科において特別入試として復興支援選抜枠を創設： 夏季・冬季の2回実施 ・被災地への支援策を協議する災害支援対策会議を開催： 開催回数9回 ・被災状況等の現地調査及び検証： 多数実施 ・東日本大震災を受けて、都市防災研究を重点的に実施 <活動実績と自治体との連携・協力関係> ① 震災前からの連携の状況・協力体制 ・大阪市と地域特性に応じた自主防災まちづくり事業に関する共同研究等を実施。 ・厚生労働省及び大阪府 DMAT と連携。 ② 現在の連携の状況・協力体制 ・釜石市災害支援ボランティアセンターと連携し、学生ボランティア活動を実施。また、その際、事前研修の実施については、大阪市社会福祉協議会ボランティア情報センターと連携。 ・宮城大学及び岩手県立大学に副学長が震災直後に訪問し、地域支援や共同研究のための連携窓口を決定。 ・岩手県からの要請により、大阪市立総合医療センターと連携し、医療救護班を派遣。 ・大阪市からの要請により、人工透析患者向け避難所への看護師を派遣。 ・厚生労働省から大阪市へ要請があり、大阪市健康福祉局及び病院局と連携し、心のケアチームを派遣。 ・釜石市役所及び宮古市役所の協力の下、被災者の避難行動調査を実施（生活科学研究科）。 <その他の機関との連携・協力関係> ② 現在の連携の状況・協力体制 ・内閣府の原子力災害対策本部からの要請により、医師を派遣。 ・本学都市研究プラザに、東日本大震災の復興に寄与すべく、G-COE 事業をはじめとした研究成果の還元を目的に、息の長い連携・研究活動の場として、東日本連携室を設置。 ・仙台市パーソナルサポートセンター（復興支援社団法人）と連携し、被災地ホームレス支援事業に関する活動を実施（文学研究科）。

	・関西及び岩手の大学等に所属する研究者と連携し、「文化による復興」をコンセプトとする組織的研究プロジェクト「岩手県陸中海岸における民族芸能の復興支援プログラム」を実施（文学研究科）。（関西チーム：大阪市立大学 大阪府立大学 日本財団、岩手チーム：盛岡大学、岩手大学、岩手県立大学、東北文化財映像研究所） ・土木学会に協力し、現地調査を実施し、調査報告結果を公開・共有（工学研究科）。 ・日本建築学会に協力し、情報収集活動や現地調査等を実施（工学研究科）。 ・廃棄物資源循環学会に協力し、災害廃棄物分別・処理戦略マニュアルの一部を作成（工学研究科）。 ・国土交通省下水道部下水道地震・津波対策技術検討委員会復興支援スキーム検討分科会に、委員として参画（工学研究科）。
5. 今後、予定している活動内容	<活動内容と自治体との今後予定されている連携・協力関係> ① 今後の連携・協力体制 ・大阪市及び東北地方の自治体、岩手県立大学、宮城大学などと連携して、都市防災研究を実施予定。 ・釜石市災害支援ボランティアセンター等と連携し、東日本大震災復興支援学生ボランティアを継続して派遣予定。 <その他の機関との連携・協力関係> ① 今後の連携・協力体制 ・本学都市研究プラザ東日本連携室に東北分室を設置し、復興支援活動やリエゾン活動を実施予定。
6. 活動が、自治体の復興計画に記載されている場合（今後の予定を含む）又は自治体との連携協定がある、又は要望等がある場合（特に被災地の大学について）	

1. 大学名	兵庫県立大学
2. 実施主体（センター名）	兵庫県立大学東日本大震災支援本部（本部長：学長）
3. 連携大学・コンソーシアムがあれば（大学・コンソーシアム名）	公立大学法人宮城大学（学生ボランティア派遣） 大学コンソーシアムひょうご神戸
4. これまでの復旧・復興のための支援等の活動実績	<活動実績> 別紙「各部局における取組状況（6月30日時点更新版）」のとおり <活動実績と自治体との連携・協力関係> ① 震災前からの連携の状況・協力体制 ・自治体との直接の連携・協力関係は特になし ② 現在の連携の状況・協力体制 ・各部局において実施（阪神・淡路大震災の知見を活かした地域ケア支援、早期復興支援のためのGISを活用した被災情報処理基盤の確立等） <その他の機関との連携・協力関係> ① 震災前からの連携の状況・協力体制 ・各部局において関係学会等との連携・協力を実施 ② 現在の連携の状況・協力体制 ・公立大学法人宮城大学と連携し、学生ボランティアの派遣を実施 ・その他、各部局において関係学会等との連携・協力を実施 (WHO看護協力センターとしての国際看護師協会等への情報発信 等)
5. 今後、予定している活動内容	<活動内容> ①学生ボランティアの派遣（年内にあと2回程度実施予定：各20名程度） ②その他、各部局の特色に応じ、継続して支援を実施 <活動内容と自治体との今後予定されている連携・協力関係> ① 今後の連携・協力体制 ・被災地のニーズに応じ、自治体との直接の連携・協力を検討 <その他の機関との連携・協力関係> ① 今後の連携・協力体制 ・公立大学法人宮城大学と連携し、学生ボランティアの派遣を実施 ・その他、各部局において関係学会等との連携・協力を実施
6. 活動が、自治体の復興計画に記載されている場合（今後の予定を含む）又は自治体との連携協定がある、又は要望等がある場合（特に被災地の大学について）	

各部局における取組状況【6月30日時点更新版】

これまで、各部局より報告のあった主な取組状況は、以下のとおり。

部 局 名	主な取組内容
経 済 学 部	○被災学生の受入れ ○経済学部・経営学部・政策科学研究所の有志により「復興支援プロジェクト」を立ち上げ ○環境人間学部ゼミ生とともに、被災地に新鮮な野菜を送る「被災地へ野菜を送ろうプロジェクト」を実施【経済学部】
経 営 学 部	○明舞団地におけるまちづくり団体主催のチャリティバザーへの学生の参加 ○NPO法人の協力を得て、学生サークルにより、県内への避難者向けの救援物資の引き受けと希望者への引き渡しを実施
工 学 部 ・ 工 学 研 究 科	○被災学生の受け入れ ○東北大学への支援（共同研究・実験施設の共同利用）
環 境 人 間 学 部	○被災学生の受入れ ○経済学部ゼミ生とともに、被災地に新鮮な野菜を送る「被災地へ野菜を送ろうプロジェクト」を実施（再掲） ○民間による支援活動への参画（「東北地方太平洋沖地震緊急地図作成チーム」等） ○釜石・大船渡・気仙沼・石巻の高等学校に辞書（約70冊）を寄贈 ○被災動物の救援活動への支援金の寄託・日用雑貨の送付
看 護 学 部	○協議会（日本看護系大学協議会等）と連携し、被災者受入れに向けた看護ケア体制の整備に向け準備 ○准教授2名を看護師として派遣（石巻市、気仙沼市〔予定〕） ○地域ケア開発研究所と連携し、東北2大学への必要物資提供（長靴・マスク・ゴーグル・ガイドライン等） ○保健師対象の災害支援（心のケア）に関する研修会への講師派遣 ○日本小児看護学会災害対策班として、子どもたちを応援する冊子等を提供 ○仙台市に対し、仮設住宅に関する高齢者向けリーフレットを提供 ○兵庫県看護協会主催による災害支援看護師に対するこころのケア研修に講師派遣（予定）

部 局 名	主な取組内容
理学部・物質理学研究科・ 生 命 理 学 研 究 科	○被災学生・大学院生・教員・研究員等の受入れ ○「被災地ＮＧＯ協働センター」の活動への支援 (被災地での汚泥消臭のための炭製作に対する支援)
応 用 情 報 科 学 研 究 科	○地理情報システム（ＧＩＳ）を活用した被災地からの避難状況の把握 ○阪神・淡路大震災等での知見を活かした地域ケア支援 (行政・大学等と連携し、震災での活動経験を持つ看護師・ＬＳＡ〔生活援助員〕・ＳＣＳ〔高齢世帯生活援助員〕等をセットにして被災地に派遣するほか、医療・看護スタッフ間の被災者情報の共有を支援)
緑環境景観マネジメント研究科	○被災大学院生の受入れ ○研究科としての被災地支援等の取組方針決定 ○研究生に対する学内研究施設・設備等の利用提供 ○「兵庫県園芸療法士」への被災者支援向け研修の実施 ○教員による現地調査（5/6～8、6/5） ○景観園芸学校・千葉大学との共同現地調査（6/9～11） ○スクールカウンセラー・校長等向けの被災者支援に関する講演において、園芸療法の活用を提案（6月、盛岡市・仙台市） ○阪神・淡路大震災時の支援内容のヒアリング（淡路市（旧北淡町）を踏まえた仮設住宅等での支援内容の検討 ○ホームページを通じた園芸療法プログラムの紹介【淡路景観園芸学校（兼務先）】 ○県内避難者向けの園芸療法プログラムの実施【淡路景観園芸学校（兼務先）】
政 策 科 学 研 究 所	○経済学部・経営学部・政策科学研究所の有志により「復興支援プロジェクト」を立ち上げ（再掲） ○「東日本大震災復興への第一次提言」をとりまとめ（4月14日記者発表済） ○明舞団地におけるまちづくり団体主催のチャリティバザーへの学生の参加（再掲） ○現地調査を実施（5/20、ＮＴＴ東日本仙台支局、宮城県産業技術総合センター、(財)みやご産業振興機構、(社)みやご工業会 等）
高度産業科学技術研究所	○高エネルギー加速器研究機構（ＫＥＫ）Phon Factoryの修理支援（現状確認済、申し出あり次第、支援を実施） ○ニュースバル放射光施設を活用した研究活動の実施機会の提供（ＫＥＫがニュースバルを活用予定（7月））

部 局 名	主な取組内容
自然・環境科学研究所	○各種学会（日本都市計画学会・日本造園学会等）を通じ、各教員が個別に支援を実施 ○岩手県陸奥高田市立博物館所蔵の被災資料（植物標本）の修復を支援し、企画展を開催【人と自然の博物館（兼務先）】
地域ケア開発研究所	○関西広域連合として、災害支援看護師を派遣（3月・5月・6月） ○「災害時の看護ボランティアの知恵袋」等、各種ガイドラインを提供 ○看護職派遣に関する組織的な体制づくりへの参加 ○兵庫県看護協会災害支援看護師に対する研修の実施 ○WHO看護協力センターとして、国際看護師協会等への情報発信 ○小中学校教育者を対象とした、子供に対する減災教育に関する会議を開催
防災教育センター	○早期復興を支援するための地理空間情報およびGISを利用した情報処理基盤の構築とその全庁的な活用 ○学生ボランティアの派遣 第1次：5/20-23（18名）、第2次：7/1-4（20名）

※義援金の募集については省略

兵庫県立大学東日本大震災支援本部設置要綱

(趣旨)

第1条 平成23年3月11日に発生した東日本大震災の被災地の早期復興を支援するため、兵庫県立大学東日本大震災支援本部（以下「支援本部」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 支援本部は、被災地の支援に係る処理方針を協議、決定するとともに、その方針に基づき必要となる事務を執行する。

(組織)

第3条 支援本部は、次に掲げる職にある者をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 部局長
- (4) 事務局長

2 支援本部長（以下「本部長」という。）は学長をもって充てるとともに、支援本部副本部長（以下「副本部長」という。）は、副学長のうちから本部長が指名する。

(支援本部会議)

第4条 支援本部会議は、本部長が招集する。

- 2 支援本部会議は、構成員の3分の2以上の出席がなければ会議を開くことができない。
- 3 支援本部会議の議事は、出席者の過半数で決し、可否同数のときは、本部長の決するところによる。

(幹事)

第5条 支援本部の運営を補佐するため、幹事長及び幹事を置く。

- 2 幹事長は、副本部長をもって充てる。
- 3 幹事は、以下の者をもって充てる。
 - (1) 部局長のうち、幹事長が指名する者
 - (2) 学長特別補佐のうち、幹事長が指名する者
 - (3) 防災教育担当教員のうち、幹事長が指名する者
 - (4) 副局長兼総務部長
 - (5) 学務部長

(幹事会)

第6条 幹事会は、幹事長が招集する。

- 2 幹事会は、幹事の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。
- 3 幹事会の議事は、出席者の過半数で決し、可否同数のときは、幹事長の決するところによる。

(庶務)

第7条 支援本部の庶務は、大学事務局学務部学務企画課で行う。

(補則)

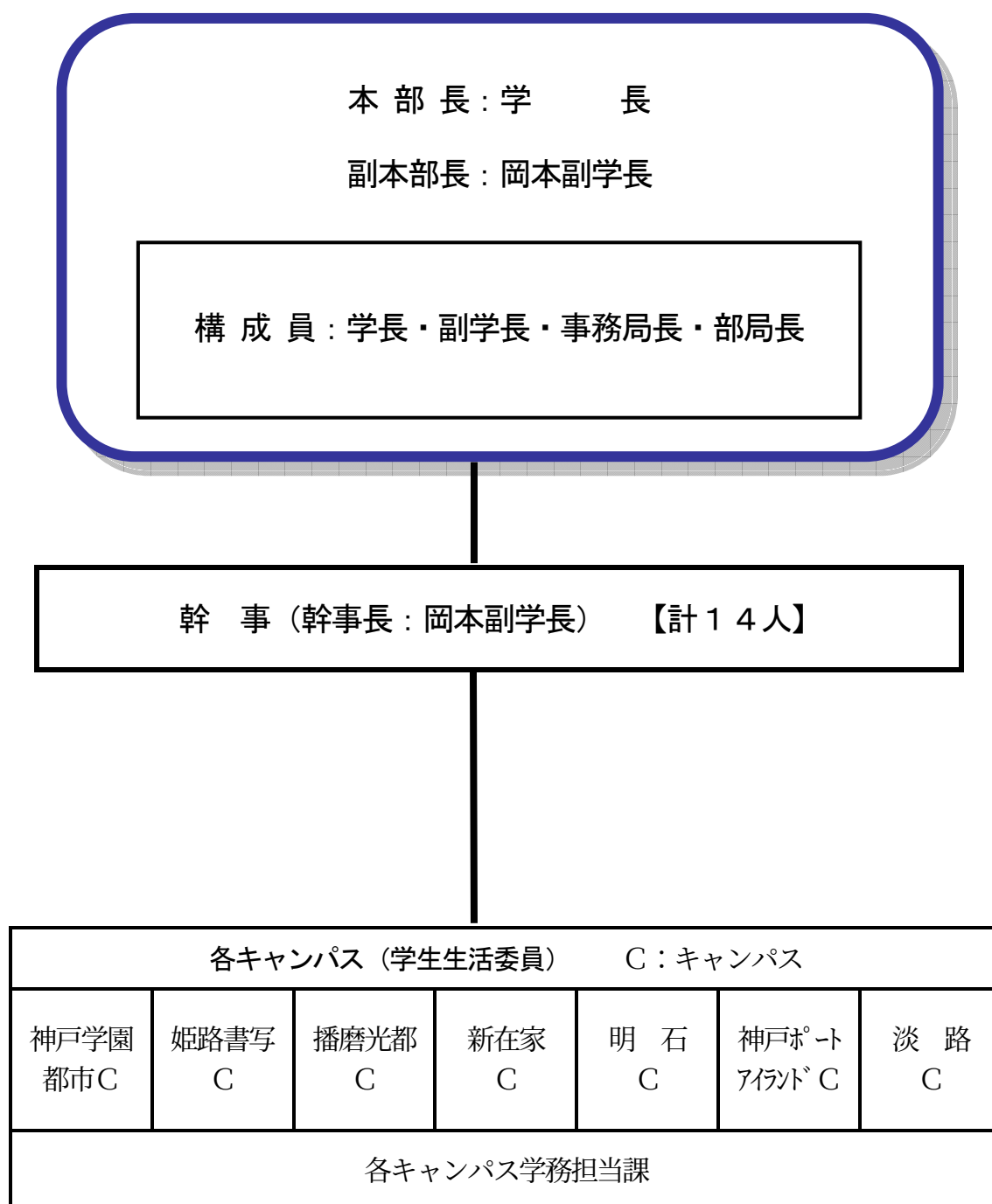
第8条 この要綱に定めるもののほか、支援本部の運営に関し必要な事項は別途定める。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成23年5月6日より施行する。

兵庫県立大学東日本大震災支援本部 組織体制



平成23年5月6日

兵庫県立大学東日本大震災支援本部 事業推進方針

今般の東日本大震災は、観測史上最大（M9.0）の地震及び津波により、死者・行方不明者合わせて約2万7千人を超える、戦後最大の被災状況となっている。

震災により被災された方々に対し、16年前の阪神・淡路大震災を経験した兵庫県の大学として、全学を挙げて様々な支援を行う。

このため、本学として、当面の事業推進方針を下記のとおりとする。

記

- 1 被災地の大学・自治体等と連携しながら、被災地のニーズを的確に把握し、復旧・復興に向けた各フェーズに応じたきめ細やかな支援を実施する。
- 2 「大学コンソーシアムひょうご神戸」などとも連携し、被災地の大学生の受け入れを積極的に行う。
- 3 被災者向けの義援金の募集を積極的に行う。
- 4 兵庫県社会福祉協議会「ひょうごボランタリープラザ」などと連携し、本学学生のボランティア活動を積極的に支援する。
また、学生が円滑かつ継続的にボランティア活動に参加できるよう、環境を整備する。
- 5 その他、部局単位では、教員の派遣、研究生に対する学内研究施設・設備の利用提供、研究成果を生かした政策提言、学会を通じた支援など、部局の特色を生かした支援を積極的に行う。

学生ボランティア第 1 次派遣（5/20～23）報告

東日本大震災復興支援の学生ボランティア第 1 次派遣隊として、本学学生 18 名（男性 8 名・女性 10 名）が、公立大学法人宮城大学の学生ボランティアと協働し、宮城県石巻市内にてボランティア活動を実施した。その概要は、以下のとおり。

【派遣概要】

派遣時期：平成 23 年 5 月 20 日（金）～ 23 日（月）

派遣被災地：宮城県石巻市内

【事前研修】

5 月 14 日（土）、派遣予定者に対し、活動時の心構えや、装備等について説明する事前研修を実施した。また、特定非営利活動法人生涯学習サポート兵庫・菅野将志氏より、現地の状況や活動時の心構え等についてお話いただいた。



事前研修の様子

【派遣・活動状況】

○5 月 20 日（金）

16 時に書写キャンパスを出発。途中、新在家キャンパスにて、「野菜とどけ隊」が生産したほうれん草 18 箱を積み込む。
18 時、学園都市キャンパスにて、清原学長ほか大学本部関係者、ひょうごボランタリープラザ：高橋所長代理出席のもと、出発式を実施。その後、被災地に向けて出発。

※出発式の様子は、同日夜のサンテレビニュースにて放映。



出発式（学長メッセージ）

○5 月 21 日（土）

9 時、三陸自動車道・矢本 P A にて、宮城大学教職員・学生及び前日より被災地入りしていた本学：岡本副学長と合流後、石巻運動公園内に設置された支援物資の集積場に、ほうれん草 18 箱を届けた。

その後、石巻ボランティアセンター（石巻専修大学校内）の指示を受け、活動場所（石巻市鮎川浜）に移動。

11 時に到着後、両大学全員（約 60 名）で、車道脇の歩道のがれき撤去作業を開始し、15 時に作業終了。

その後、市内の被災状況を視察のうえ、仙台市内の宿舎まで移動。宮城大学：弦本副学長をはじめ職員・学生計 9 名と夕食会を行い、両校の交流を深めた。



ほうれん草の搬出



がれき撤去作業

○5月22日（日）

8時に宿泊地（仙台）を出発。
三陸自動車道・矢本PAで、宮城大学のメンバーと合流後、
石巻ボランティアセンターに向け移動。ボランティアセン
ターの指示を受け、活動場所（石巻市南光町）に移動。



活動待機中の様子

午前中は雨模様のため、昼食を摂るなどして待機。

午後、両大学全員（約50名）で、住宅地の側溝にたまったヘドロの回収作業を実施し、
15時に作業を終了。



ヘドロ回収作業

16時、現地解散式を行った後、宮城大学のメンバーと別れ、被災地を離れ兵庫県に向け
出発。



両大学の参加者

○5月23日（月）

朝、新在家キャンパス・書写キャンパスを經由し、神戸学園都市キャンパスに到着。
下車後、教職員に出迎えられ、解散式を実施。

【活動地域】



学生ボランティア第 2 次派遣（7/1～4）報告

東日本大震災復興支援の学生ボランティア第 2 次派遣隊として、本学学生 20 名（男性 5 名・女性 15 名）が、公立大学法人宮城大学の学生ボランティアと協働し、宮城県石巻市内にてボランティア活動を実施した。その概要は、以下のとおり。

【派遣概要】

派遣時期：平成 23 年 7 月 1 日（金）～ 4 日（月）

派遣被災地：宮城県石巻市内

【事前研修】

6 月 25 日（土）、派遣予定者に対し、活動時の心構えや、装備等について説明する事前研修を実施。研修中、自己紹介の時間を設けるなど、参加者間の親睦を図った。



事前研修の様子

【派遣・活動状況】

○7月1日（金）

16 時過ぎ、「野菜とどけ隊」が生産した野菜（キャベツ・じゃがいも等）13 箱を積み込み、姫路新在家キャンパスを出発。途中、明石キャンパスを経由し、18 時 30 分に学園都市キャンパスに到着。

同キャンパスにて、清原学長ほか大学本部関係者出席のもと出発式を実施（森永准教授・井口教授同席）。その後、被災地に向けて出発。



出発式（学長メッセージ）

○7月2日（土）

9 時 30 分、三陸自動車道・矢本 P A にて宮城大学教職員・学生と合流。両大学の混成チームを編成のうえバスに分乗し、石巻ボランティアセンター（石巻専修大学内）に向かう。石巻ボランティアセンターにて活動場所の指定を受け、11 時より活動場所（石巻市南中里 2 丁目）にて、住宅地側溝の泥出しを開始。



住宅地側溝の泥出しの様子①

15 時に活動を終了。途中、石巻市内の商業施設にて現地の物産を購入し、宿泊場所（東北自治研修所）に到着。宿泊場所にて、本学浦川准教授・深江教授と合流。

18 時 30 分より、本学と宮城大学の教職員・学生間の交流会を開催。



本学と宮城大学との交流会

○7月3日（日）

9 時、東北自治研修所を出発。石巻ボランティアセンターにて活動場所の指定を受け移動。前日と同じ場所にて、11 時より住宅地側溝の泥出しを実施。

活動中、本学・宮城大学の学生それぞれ 1 名に負傷者（側溝のふたに挟まれ、指を打撲）が出るものの、大事には至らず。12 時に活動を終了。



住宅地側溝の泥出しの様子②

昼食後、活動地域周辺の被災状況及び津波被害エリアを視察。



両大学の学生が集う

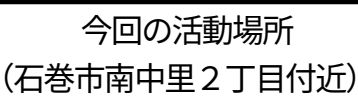


被災状況の視察

途中、仙台市内の入浴施設に立ち寄った後、18 時過ぎに兵庫県に向けて出発。

○7月4日（月）

朝 6 時 30 分、学園都市キャンパスに到着。その後、明石キャンパスを經由し、8 時過ぎに姫路新在家キャンパスに到着し、全員解散。



学生ボランティア第3次派遣（9/12～15）報告

東日本大震災復興支援の学生ボランティア第3次派遣隊として、本学学生 17 名（男性 7 名・女性 10 名）が、公立大学法人宮城大学の学生ボランティアと協働し、宮城県南三陸町内にて傾聴ボランティア活動を実施した。その概要は、以下のとおり。

【派遣概要】

派遣時期：平成 23 年 9 月 12 日（月）～ 15 日（木）

派遣被災地：宮城県南三陸町内

【事前研修】

9 月 8 日（木）、派遣予定者に対し事前研修を実施した。研修では、特定非営利活動法人生涯学習サポート兵庫・菅野将志氏より、現地の状況や傾聴ボランティア活動に際しての心構え等についてお話いただいた。



事前研修の様子

【派遣・活動状況】

○9月12日（月）

事前に派遣学生が集合し、「傾聴」の際に被災者の皆さんとともにできそうな遊びや出し物を検討。17 時、「兵庫県立大学防災教育センター」にて、清原学長・新免副学長などの出席のもと出発式を開催。その後、宮城県に向け、同センターを出発。



遊び・出し物の検討



出発式（派遣学生代表の宣誓）

○9月13日（火）

途中、南三陸町内の被災状況を視察後、宿泊地「上沢集会所」に移動し、宮城大学と合流。上沢地区の住民の方より、南三陸町の地理・歴史をご案内いただく。



被災状況（南三陸町防災庁舎）



町の地理・歴史の案内

昼食後、宮城大学学生より傾聴ボランティアの際の注意事項を学び、上沢地区の民家を訪問するグループ（本学学生 14 名＋岡本副学長）と南三陸町社会福祉協議会の支援員とともに仮設住宅を訪問するグループ（本学学生 3 名＋森永准教授）に分かれ、活動を開始。

16 時に活動終了。県立大学学生の手作りによる夕食ののち、特別養護老人ホーム「春圃苑」苑長様ほかより、緊急時の対応や行政の対応に関する話を伺った。



仮設住宅の様子

○9月14日（水）

8 時 30 分より、前日と同様に 2 グループに分かれ活動を開始。仮設住宅訪問グループは、仮設住宅での「お茶っ子」（懇親会）に参加し、準備してきた遊びを被災者の皆さんと実施。

昼食後、民家訪問グループは、上沢集会所にて活動報告会・反省会を実施。一方、仮設住宅訪問グループは、午前と同様に活動。

活動終了後、宮城大学学生も含め全員が社会福祉協議会「歌津サテライト」に集合。本学の「野菜届け隊」が育てたジャガイモなどの野菜を同サテライトに謹呈し、仮設住宅前にて『幸せ運べるように』を合唱。



本学・宮城大学学生の集合写真

17 時、宮城大学学生との別れを惜しみながら、南三陸町を出発。途中、仙台市内のスーパー銭湯にて、入浴および夕食。

○9月15日（木）

7 時、「兵庫県立大学防災教育センター」経由で JR 三ノ宮駅に帰着・解散。

【活動地域】



 : 津波による浸水区域

東日本大震災復興支援 兵庫県立大学学生ボランティアの第4次派遣

東日本大震災の被災地支援の一環として、兵庫県立大学と「ひょうごボランタリープラザ」が協働※して、下記のとおり宮城県南三陸町に学生ボランティアを派遣する。

なお、現地では、公立大学法人宮城大学の学生ボランティアとともに、仮設住宅等での傾聴ボランティア活動を行う。

※兵庫県立大学：学生ボランティア募集、宮城大学との調整 等
ボランタリープラザ：派遣ノウハウの提供 等

記

1 派遣日

平成23年11月25日（金）～11月28日（月）

2 活動場所

宮城県南三陸町

3 活動内容

仮設住宅等を巡回し、傾聴ボランティア活動を実施

4 派遣人数（予定）

学生：20名程度 教員：2名程度

5 行程（予定）

別紙のとおり

6 事前研修

事前の準備や傾聴ボランティア活動に関する心構え等について、以下のとおり事前研修を実施予定

日時：11月19日（土） 10：00～12：30

場所：「兵庫県立大学防災教育センター」大教室（「人と防災未来センター」東館4階）

【行程（予定）】

月 日	時間帯	予 定	備 考
11月25日 (金)	夕 方	キャンパス発、宮城県へ (姫路書写 C→姫路新在家 C→明石 C→神戸学園都市 C 経由)	車中泊
11月26日 (土)	朝 午 前 (昼食) 午 後 夕 方 夜	宮城大学と合流のうえ、南三陸町到着 オリエンテーション・グループ分け 両大学の学生懇談会 現地での活動実施 活動終了 宿泊（南三陸町）	
11月27日 (日)	朝 午 前 日 中 夕 方	宿舎発 現地到着・前日の報告 現地での活動実施 活動終了、兵庫県に向け出発	車中泊
11月28日 (月)	朝	キャンパス到着・解散（各キャンパス経由）	

兵庫県立大学・宮城大学合同シンポジウム「震災復興を考える ～阪神・淡路大震災と東日本大震災～」(10/29～30)の開催結果概要

本学では、東日本大震災の被災地支援の取り組みの一つとして、公立大学法人宮城大学と協働して学生ボランティア活動を行っている。

このたび、これまでの両大学の連携実績に基づき、両大学の学生たちがボランティア活動の中で感じ、考えたことの発表や被災経験を有する自治体職員からみた東日本大震災の災害対応、阪神・淡路大震災を経験し復興した企業経営者等の経験談などを聞き、災害時の応急対応、被災地の復興さらには今後の災害への備えについて考えるため、下記のとおりシンポジウムを開催した。

※本シンポジウムは、「大学コンソーシアムひょうご神戸」設立5周年記念事業の加盟大学による震災復興シリーズ講演会にも位置づけている。

記

1 主 催

兵庫県立大学東日本大震災支援本部、公立大学法人宮城大学

2 共 催

大学コンソーシアムひょうご神戸、ひょうごボランタリープラザ

3 日時・場所・参加者数

- (1) 10月29日(土) 13:00～17:00 兵庫県立大学防災教育センター
(参加者80人、うち学生51人)
- (2) 10月30日(日) 9:30～12:00 兵庫県自治研修所
(参加者35人、うち学生15人)

4 概 要

(1) 10月29日(土)

〔テーマ〕ボランティア活動と震災復興支援 ― 自助・公助・共助を考える ―

【第1セッション】学生ボランティア活動で感じ、考えたこと(自助・共助)

宮城大学生(5人)、本学学生(3人)より、ボランティア活動で感じ、考えたことを発表した。発表では、震災犠牲者への鎮魂や津波被害の意識風化への警鐘等の観点から、津波到達点に石碑を設置するプロジェクトを計画していること、また、傾聴ボランティアでは、地域の特性や歴史などの勉強や被災者の気持ちに寄り添うことの大切さ、ボランティアを継続することの大切さを実感したとの報告があった。



学生による報告

【特別講演】「東日本大震災における相馬市の被害状況と復興の今」

福島県相馬市役所：只野聡一氏から、震災直後から現在に至る取組の様子について現場の様子やそれに応じた市役所や自治組織（消防団など）の活動を中心に講演いただいた。

講演では、行方不明者の搜索活動の過酷さや、地元商店街による献身的な商品提供への取組、また、地域の祭りを行うことで、地域の歴史や風土を再認識することがコミュニティの復旧に大切であることなどについて発言があった。

【第IIセッション】被災経験を有する自治体実務者からみた東日本大震災の災害対応

石川県輪島市役所：倉本啓之氏から、平成19年に発生した能登半島地震後における被災者の生活再建支援について、諸制度の概要や住民対応の最前線での対応の難しさ・問題点を報告いただいた。この中では、「自助」「共助」「公助」のほか、「区域外自治体による支援」の必要性について発言があった。

また、本県防災企画課：小山達也氏から「兵庫の防災の考え方」について発表があり、東日本大震災の復興支援で果たした本県の役割、特に関西広域連合による「カウンターパート方式」の利点について説明があった。また、「大学間」「地域間」が連携する仕組みを確立し、今後の災害に備えることの大切さについて発言があった。

【第IIIセッション】

第Iセッション参加者から第IIセッション参加者への質問形式で、様々なテーマについて議論を進めた。この中では、

- ・PTSD（心的外傷後ストレス障害）への対応
- ・カウンターパート方式
- ・被災者の自立支援の重要性
- ・学生ボランティアの継続的な活動の仕組み

などについて意見交換があった。

学生からは、大学生が果たす役割への理解が進んだとの発言があった。

一方、講師からは、学生に対し、大学や防災機関が連携する構想が今後提示されるので参加してほしい旨、また、学生の自主的な活動が進むことや両大学の協力関係が続くことへの期待が述べられた。



第IIIセッションの様子

(2) 10月30日(日)

〔テーマ〕阪神・淡路大震災からの復興（被災経験者を囲む）

阪神・淡路大震災を経験した企業経営者や本学教員からの報告の後、宮城大学教員・学生との質疑応答を行った。

【第一部】

(株) トライス：岸徹社長からは、震災を経て自社がどのように変化し、成長したかについて、資金確保や業態変革を行い、「社員の成長支援こそが最大の経営戦略」として実践してきたことなどが紹介された。



伍魚福：山中社長による報告

また、(株) 伍魚福：山中勸社長からは、震災の影響を乗り越える際に、取引先や原材料の多様化などのリスク分散や物流の効率化を行ったこと、さらに「社員がやりがいをもって働く環境と教育」を重要とする考えが、企業が生き残る上で重要であることが紹介された。

【第二部】

本学地域ケア開発研究所：山本所長より、災害看護のあり方、成功事例などの報告があった。



山本所長による報告

その中では、「人をつなぐ」安心な社会づくりに対する看護師の役割の重要性が示された。また、質疑では、仮設住宅へ支援に入る際の他団体との関係や大学の立ち位置、学生ボランティアグループの運営について、また、特別支援学校生徒への支援などについて意見交換が行われた。

これらの講演や活発な討議の中で、学生が主体となったボランティア組織の今後の進め方や社会人としての心構えなど多くのことを学んだ。



パネルディスカッションの様子

各部局における取組状況【10月31日時点最新版】

これまで、各部局より報告のあった主な取組状況は、以下のとおり。

※前回（9月7日）報告内容から変更のあったものについては、下線で表示。

部 局 名	主な取組内容
経 済 学 部	○被災学生の受入れ ○経済学部・経営学部・政策科学研究所の有志により「復興支援プロジェクト」を立ち上げ ○環境人間学部ゼミ生とともに、被災地に新鮮な野菜を送る「被災地へ野菜を送ろうプロジェクト」を実施【経済学部】 ○明舞団地におけるまちづくり団体主催のチャリティバザーへの学生の参加 ○<u>経済学部・経営学部教員が、福島県いわき市の小学校・NPOを訪問し、今後の支援と連携について協議（10月）。</u>
経 営 学 部	○学生震災支援サークル「Bridge」による支援 ・県内への避難者向けの救援物資の引き受けと希望者への引き渡しを実施 ・淡路市一宮町における福島県いわき市の3高校のテニス合宿にボランティアを約20名派遣（8月5～17日） ・宮城県石巻市に1名（8月7～9日）、福島県飯舘村に2名（7月8日～11日）のボランティアを派遣 ・<u>学園祭で、福島県いわき市「いわきの子どもを守るネットワーク」と共同し、復興のパネル展示を行う。また、被災家族と子どもたちを招待し、交流会を予定。</u>
工 学 部 ・ 工 学 研 究 科	○被災学生の受け入れ ○東北大学への支援（共同研究・実験施設の共同利用）
環 境 人 間 学 部	○被災学生の受入れ ○経済学部ゼミ生とともに、被災地に新鮮な野菜を送る「被災地へ野菜を送ろうプロジェクト」を実施（再掲） ○民間による支援活動への参画（「東北地方太平洋沖地震緊急地図作成チーム」等） ○釜石・大船渡・気仙沼・石巻の高等学校に辞書（約70冊）を寄贈 ○被災動物の救援活動への支援金の寄託・日用雑貨の送付 ○学生によるチャリティコンサートを開催（9月4日）し、チケットの収益金及び当日の募金（計62,161円）を社会福祉法人中央共同募金会に寄付 ○<u>日本ビタミン学会と連携して、学術雑誌「ビタミン」に緊急特集『災害栄養ービタミン・ミネラルから食事と健康までー』を企画・掲載</u>

部 局 名	主な取組内容
看護学部	○協議会（日本看護系大学協議会等）と連携し、被災者受入れに向けた看護ケア体制の整備に向け準備 ○准教授2名を看護師として派遣（石巻市、気仙沼市〔予定〕） ○地域ケア開発研究所と連携し、東北2大学への必要物資提供（長靴・マスク・ゴーグル・ガイドライン等） ○保健師対象の災害支援（心のケア）に関する研修会への講師派遣 ○日本小児看護学会災害対策班として、子どもたちを応援する冊子等を提供 ○仙台市に対し、仮設住宅に関する高齢者向けリーフレットを提供 ○兵庫県看護協会主催による災害支援看護師に対するこころのケア研修に講師派遣（予定） ○関西広域連合による支援本部への派遣チームの一員として、准教授1名が保健師として参加（気仙沼市、8/11～19） ○宮城大学看護学部・大学院との教育活動支援に向けた情報交換の実施 ○<u>兵庫県医師会主催フォーラム「東日本大震災医療支援活動から学ぶ」にシンポジストとして参加（10月）</u> ○<u>日本介護福祉学会公開講座・基調講演「高齢者が災害にあったときのケア」の講師として教員を派遣（10月）</u>
理学部・物質理学研究科・生命理学研究科	○被災学生・大学院生・教員・研究員等の受入れ ○「被災地NGO協働センター」の活動への支援（被災地での汚泥消臭のための炭製作に対する支援）
応用情報科学研究科	○地理情報システム（GIS）を活用した被災地からの避難状況の把握 ○阪神・淡路大震災等での知見を活かした地域ケア支援（行政・大学等と連携し、震災での活動経験を持つ看護師・LSA〔生活援助員〕・SCS〔高齢世帯生活援助員〕等をセットにして被災地に派遣するほか、医療・看護スタッフ間の被災者情報の共有を支援） ○<u>学会・NPO法人の活動を通じての支援</u> ・各自治体のサイトから最新の避難者受入状況を調査し、マップで提供（http://rarmis.jp/dpgissig/） ・内閣府認証特定非営利活動法人関西情報化維新協議会の震災対応委員会による現地調査を実施 ・経営情報学会関西支部として、「神戸で考える震災と情報支援」をテーマに、特定非営利法人関西情報化維新協議会との共催で研究会を開催（7月1日）

部 局 名	主な取組内容
緑環境景観マネジメント研究科	○被災大学院生の受入れ ○研究科としての被災地支援等の取組方針決定 ○研究生に対する学内研究施設・設備等の利用提供 ○「兵庫県園芸療法士」への被災者支援向け研修の実施 ○教員による現地調査（5/6～8、6/5） ○景観園芸学校・千葉大学との共同現地調査（6/9～11） ○スクールカウンセラー・校長等向けの被災者支援に関する講演において、園芸療法の活用を提案（6月、盛岡市・仙台市） ○阪神・淡路大震災時の支援内容のヒアリング（淡路市（旧北淡町）を踏まえた仮設住宅等での支援内容の検討 ○景観園芸による復興支援プログラムの実施と普及啓発（9/4～6、石巻市・南三陸町） ○（独法）森林総合研究所の「海岸防災林による津波被害軽減効果検討調査」に関する現地調査への参加（9/4～6） ○園芸療法体験を合わせた研修会の開催（9月：岩手県立大学、11月：岩手県盛岡市） ○ホームページを通じた園芸療法プログラムの紹介【淡路景観園芸学校（兼務先）】 ○県内避難者向けの園芸療法プログラムの実施【淡路景観園芸学校（兼務先）】
政 策 科 学 研 究 所	○経済学部・経営学部・政策科学研究所の有志により「復興支援プロジェクト」を立ち上げ（再掲） ○「東日本大震災復興への第一次提言」をとりまとめ（4月14日記者発表済） ○明舞団地におけるまちづくり団体主催のチャリティバザーへの学生の参加（再掲） ○現地調査を実施（5/20、NTT東日本仙台支局、宮城県産業技術総合センター、（財）みやご産業振興機構、（社）みやご工業会 等） ○（財）神戸都市問題研究所と共同で、現地復興計画策定への提案実施のため、現地調査を実施（8/18～20） ○その他、教員が個別に、学会や出版物等を通じて復興に向けた提案を随時実施
高度産業科学技術研究所	○高エネルギー加速器研究機構（KEK）Phon Factoryの修理支援（現状確認済、申し出あり次第、支援を実施） ○ニュースバル放射光施設を活用した研究活動の実施機会の提供（KEK：7月、東北大学：23年8月～24年3月（予定））

部 局 名	主な取組内容
自然・環境科学研究所	○各種学会（日本都市計画学会・日本造園学会等）を通じ、各教員が個別に支援を実施（大洗サンビーチ復興計画素案への作成支援（7～8月）、<u>湾岸の植生の被害状況調査</u>等） ○岩手県陸奥高田市立博物館所蔵の被災資料（植物標本）の修復を支援し、企画展を開催・<u>研究員を派遣【人と自然の博物館（兼務先）】</u> ○<u>子どもの心のケアのためのキャラバン事業を仙台市で開催（7月上旬）【人と自然の博物館（兼務先）】</u> ○<u>「全国的な自然誌系標本セーフティネット構築」のためのワーキンググループへの研究員派遣【人と自然の博物館（兼務先）】</u>
地域ケア開発研究所	○関西広域連合として、災害支援看護師を派遣（3月・5月・6月・7月） ○「災害時の看護ボランティアの知恵袋」等、各種ガイドラインを提供 ○被災県大学教員との今後の支援策の検討（宮城大学副学長等と懇談：7月）⇒宮城大学看護学部と本学明石キャンパスとの連携により、仮設住宅における健康支援活動の計画立案を実施 ○看護職派遣に関する組織的な体制づくりへの参加（日本看護学会の災害担当者会議に参加：8月）（日本災害看護学会への参加：9月） ○人材育成（被災地の看護職員に対する講演等：明石市、京都府、滋賀県、加古川市 等） ○兵庫県看護協会災害支援看護師に対する研修の実施 ○兵庫県医師会主催の「県民の医療と福祉を守る会設立フォーラム」にて災害支援体験を発表。兵庫県看護協会主催の「災害支援ナース養成研修会リーダー編」を企画・講義。 ○小中学校教育者への講演（明石市・松原市 等） ○WHO看護協力センターとして、国際看護師協会等への情報発信（世界看護科学学会での講演等） ○WHO神戸センター主催の「第一回人道危機支援に関する保健クラスターフォーラム」に参加 ○韓国で開催された「アジア太平洋地域救急と災害看護ネットワーク会議」に出席（10月）。
防災教育センター	○早期復興を支援するための地理空間情報およびGISを利用した情報処理基盤の構築とその全庁的な活用 ○学生ボランティアの派遣 第1次：5/20-23（18名）、第2次：7/1-4（20名） 第3次：9/12-15（17名）、第4次：11/25-28（予定） ○宮城大学との合同シンポジウム「震災復興を考える～阪神・淡路大震災と東日本大震災」の開催（10/29～30）

1. 大学名	神戸市看護大学
2. 実施主体（センター名）	
3. 連携大学・コンソーシアムがあれば（大学・コンソーシアム名）	兵庫県看護系大学協議会
4. これまでの復旧・復興のための支援等の活動実績 （例） 学生ボランティアの派遣 教員のボランティア派遣 復興計画の策定	<活動実績> ①兵庫県看護協会の災害支援ナースの募集に応じて、4月に2名の教員が宮城県石巻市の避難所へ支援に出かけた。 ②募集活動 ・学生有志による街頭募金活動 ・教員による学内募金箱の設置 ・平成22年度事業生による卒業式後の募金活動、謝恩会での募金活動 ・教職員親睦会からの募金 <活動実績と自治体との連携・協力関係> ①震災前からの連携の状況・協力体制 ・神戸市看護大学は、神戸市と連携をとって災害支援あるいは避難者への支援活動を行っていく方針でしたが、現時点まで要請がないため、実施していない。 ②現在の連携の状況・協力体制 ・現在、特に協力体制はとっていない。 <その他の機関との連携・協力関係> ②現在の連携の状況・協力体制 ・兵庫県看護系大学協議会において、災害支援の会を立ち上げている。 ・宮城県南三陸町避難所への医療救護チームの一員として、平成23年3月に南三陸町の志津川高校避難所での救護所で医療活動をした神戸市立医療センター中央市民病院の看護師が、4月より神戸市看護大学に編入学したが、同学生が1年生、編入生対象に、自らの経験を話し、学生は、被災地への支援に対する理解を深めた。
5. 今後、予定している活動内容	<活動内容> ①兵庫県看護系大学協議会の災害支援の会で、被災地より兵庫県に移住してこられている方々への支援活動を行っていく計画を進めている。

	②ボランティア登録をしている学生にメールを通じて、いわて GINGA-NET プロジェクトや他の種々のボランティア関連の情報を発信し、ボランティアを希望する学生を支援する。 ③11 月の学園祭で学生有志が募金活動を行う予定。 ＜その他の機関との連携・協力関係＞ ①今後の連携・協力体制 ・個々の教員は所属している学会と連携・協力体制を持っているが、大学として連携を持っているわけではない。
6. 活動が、自治体の復興計画に記載されている場合（今後の予定を含む）又は自治体との連携協定がある、又は要望等がある場合（特に被災地の大学について）	

1. 大学名	奈良県立医科大学
2. 実施主体（センター名）	大学（附属病院）、 学生ボランティア
3. 連携大学・コンソーシアムがあれば（大学・コンソーシアム名）	
4. これまでの復旧・復興のための支援等の活動実績	・医療救護班派遣 （DMAT、撤収班含む）計 15 チーム（派遣人数 医師 25 名、看護師 18 名、その他 13 名） 3 月 11 日～6 月 3 日 ・こころのケアチーム派遣 計 5 チーム（派遣人数 医師 5 名） 6 月 13 日～8 月 4 日現在
5. 今後、予定している活動内容 ① 学生ボランティアの派遣	<活動内容> ①奈良県立医科大学学生による震災ボランティアの派遣（計画） 福島県立医科大学 医療人育成・支援センター と連携 ・期間：8 月 26 日～8 月 30 日（往復：バス） ・人数：学生等 約 20 名 ・場所：福島市、相馬市、南相馬市の保健センター、仮設住宅等
6. 活動が、自治体の復興計画に記載されている場合（今後の予定を含む）又は自治体との連携協定がある、又は要望等がある場合（特に被災地の大学について）	

1. 大学名	奈良県立大学
2. 実施主体（センター名）	
3. 連携大学・コンソーシアムがあれば（大学・コンソーシアム名）	
4. これまでの復旧・復興のための支援等の活動実績	<活動実績> 学生のボランティア団体による募金活動
5. 今後、予定している活動内容	<活動内容> 県が実施している「学生等による災害ボランティアバス」制度利用を検討中。 学生及び教員の参加希望者を募集中。
6. 活動が、自治体の復興計画に記載されている場合（今後の予定を含む）又は自治体との連携協定がある、又は要望等がある場合（特に被災地の大学について）	

1. 大学名／ご担当者名／電話	和歌山県立医科大学
2. 実施主体（センター名）	和歌山県立医科大学
3. 連携大学・コンソーシアムがあれば（大学・コンソーシアム名）	
4. これまでの復旧・復興のための支援等の活動実績	<活動実績> 別紙データのとおり。 <活動実績と自治体との連携・協力関係> ① 震災前からの連携の状況・協力体制 和歌山県（設置団体）とDMA Tの派遣活動について連携を行っていた。 ② 現在の連携の状況・協力体制 和歌山県（設置団体）とDMA T及び医療救護班の派遣活動について連携をとっている。
5. 今後、予定している活動内容	<活動内容> 岩手県内への小児科医の派遣（8月下旬～9月初旬）
6. 活動が、自治体の復興計画に記載されている場合（今後の予定を含む）又は自治体との連携協定がある、又は要望等がある場合（特に被災地の大学について）	

本院の主な活動状況（派遣実人員８１名・延べ４２２名）

[illegible]

救護班

救護活動診療人数	
班名	患者数
1	159
2	189
4	142
5	118
6	96
9	82
10	69
11	61
22	50
合計	966

活動形態	No.	大学病院名	概 要	チ-ム構成		派遣期間			派遣先	延人日数
				人数	内 訳	日数	出発日	帰着日		
DMAT	1	和歌山県立医科大学附属病院	花巻空港SCUにて、域外搬送	5	医師2、看護師2、事務1	4	3月12日	3月15日	岩手県花巻空港	20
県救護班	1	和歌山県立医科大学附属病院	県医療救護班第1班として、救護所の設置、救護所での診療、地区の往診を実施。	7	医師2、看護師2、薬剤師1、事務2	5	3月19日	3月23日	岩手県山田町豊間根中学校救護所	35
	2	和歌山県立医科大学附属病院	県医療救護班2班として、救護所の設置、救護所での診療、地区の往診を実施。	7	医師2、看護師2、薬剤師2、事務1	5	3月22日	3月26日	岩手県山田町豊間根中学校救護所	35
	3	和歌山県立医科大学附属病院	県医療救護班第4班として、救護所の設置、救護所での診療、地区の往診を実施。	4	医師1、看護師1、薬剤師1、事務1	5	3月28日	4月1日	岩手県山田町豊間根中学校救護所	20
	4	和歌山県立医科大学附属病院	県医療救護班第5班として、救護所の設置、救護所での診療、地区の往診を実施。	4	医師1、看護師1、薬剤師1、事務1	5	3月31日	4月4日	岩手県山田町豊間根中学校救護所	20
	5	和歌山県立医科大学附属病院	県医療救護班第6班として、救護所の設置、救護所での診療、地区の往診を実施。	4	医師1、看護師1、薬剤師1、事務1	5	4月3日	4月7日	岩手県山田町豊間根中学校救護所	20
	6	和歌山県立医科大学附属病院	県医療救護班第9班として、救護所の設置、救護所での診療、地区の往診を実施。	4	医師1、看護師1、薬剤師1、事務1	5	4月12日	4月16日	岩手県山田町豊間根中学校救護所	20
	7	和歌山県立医科大学附属病院	県医療救護班第10班として、救護所の設置、救護所での診療、地区の往診を実施。	4	医師1、看護師1、薬剤師1、事務1	5	4月15日	4月19日	岩手県山田町豊間根中学校救護所	20
	8	和歌山県立医科大学附属病院	県医療救護班第11班として、救護所の設置、救護所での診療、地区の往診を実施。	4	医師1、看護師1、薬剤師1、事務1	5	4月18日	4月22日	岩手県山田町豊間根中学校救護所	20
	9	和歌山県立医科大学附属病院	県医療救護班第22班として、地区の往診を実施。	4	医師1、看護師1、薬剤師1、事務1	5	5月21日	5月25日	岩手県山田町豊間根地区・大沢地区	20
	10	和歌山県立医科大学附属病院	県医療救護班第23班として、地区の往診を実施。	4	医師1、看護師1、薬剤師1、事務1	5	5月24日	5月28日	岩手県山田町豊間根地区・大沢地区	20
	11	和歌山県立医科大学附属病院	県医療救護班第24班として、地区の往診を実施。	4	医師1、看護師1、薬剤師1、事務1	5	5月27日	5月31日	岩手県山田町豊間根地区・大沢地区	20
	12	和歌山県立医科大学附属病院	県医療救護班第33班として、地区の往診を実施。	4	医師1、看護師1、薬剤師1、事務1	5	6月23日	6月27日	岩手県山田町豊間根地区・大沢地区	20
	13	和歌山県立医科大学附属病院	県医療救護班第34班として、地区の往診を実施。	5	医師1、看護師1、薬剤師1、事務1	5	6月26日	6月30日	岩手県山田町豊間根地区・大沢地区	25
県こころのケア救護班	1	和歌山県立医科大学附属病院	県心のケアチームの一員として、本院の神経精神科医師を派遣した。 なお、チーム構成職制は、医師・他病院の看護師・	1	本院医師1、他病院の看護師2名、県職員1名(混成チーム)	5	4月18日	4月22日	岩手県釜石市釜石保健所	5
	2	和歌山県立医科大学附属病院	県心のケアチームの一員として、本院の神経精神科医師を派遣した。 なお、チーム構成職制は、医師・他病院の看護師・	1	本院医師1、他病院の看護師2名、県職員1名(混成チーム)	5	4月21日	4月25日	岩手県釜石市釜石保健所	5
	3	和歌山県立医科大学附属病院	県心のケアチームの一員として、本院の神経精神科医師を派遣した。 なお、チーム構成職制は、医師・他病院の看護師・	1	本院医師1、他病院の看護師2名、県職員1名(混成チーム)	5	4月24日	4月28日	岩手県釜石市釜石保健所	5

福島県立医科大学 附属病院 関連	1	和歌山県立医科大学附属病院	福島県からの要請を受け、被ばく者医療の支援のため	1	医師1	7	3月20日	3月26日	福島県立医科大学附属病院	7
	2	和歌山県立医科大学附属病院	福島県からの要請を受け、被ばく者医療の支援のため	1	医師1	7	3月25日	3月31日	福島県立医科大学附属病院	7
	3	和歌山県立医科大学附属病院	福島県からの要請を受け、被ばく者医療の支援のため	1	医師1	7	4月1日	4月7日	福島県立医科大学附属病院	7
	4	和歌山県立医科大学附属病院	福島県からの要請を受け、被ばく者医療の支援のため	1	医師1	7	4月8日	4月14日	福島県立医科大学附属病院	7
	5	和歌山県立医科大学附属病院	福島県からの要請を受け、被ばく者医療の支援のため	1	医師1	7	4月15日	4月21日	福島県立医科大学附属病院	7
	6	和歌山県立医科大学附属病院	福島県からの要請を受け、被ばく者医療の支援のため	1	医師1	7	4月22日	4月28日	福島県立医科大学附属病院	7
	7	和歌山県立医科大学附属病院	福島県からの要請を受け、被ばく者医療の支援のため	1	医師1	7	4月29日	5月3日	福島県立医科大学附属病院	7
	8	和歌山県立医科大学附属病院	福島県からの要請を受け、被ばく者医療の支援のため	1	医師1	7	5月4日	5月8日	福島県立医科大学附属病院	7
	9	和歌山県立医科大学附属病院	福島県からの要請を受け、被ばく者医療の支援のため	1	医師1	7	5月9日	5月14日	福島県立医科大学附属病院	7
	10	和歌山県立医科大学附属病院	福島県からの要請を受け、被ばく者医療の支援のため	1	医師1	7	5月15日	5月21日	福島県立医科大学附属病院	7
	11	和歌山県立医科大学附属病院	福島県からの要請を受け、被ばく者医療の支援のため	1	医師1	7	5月22日	5月28日	福島県立医科大学附属病院	7
その他	1	和歌山県立医科大学附属病院	警察庁からの要請で、岩手県宮古市にて検死活動。	1	教員1	7	3月14日	3月21日	宮城県の沿岸部市町村を巡回	7
	2	和歌山県立医科大学附属病院	脊椎障害医学会の要請を受け、宮城県、岩手県、青森県の太平洋沿岸部を北上しつつ、脊椎損傷者の支援活動を実施。	1	教員1	7	4月4日	4月8日	被災県沿岸部を北上	7
	3	和歌山県立医科大学附属病院	日本小児科学会からの要請で、小児科診療支援を実施。	1	医師1	1	6月19日	6月26日	岩手県大船渡市	1
合計				81		176				422